

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

北米で3月5日から7日の3日間限定で発売された、KYダービー・フューチャーウエイジャーライフイズグッド(牡3)が、今月のこのコラム人気に推されたライフイズグッド(牡3)、父イントゥミスチフ)が、今月のこのコラムの主役だ。

馬を紹介する前に、フューチャーウェイジャーライフイズグッドについて簡単に説明させていた。だくと、これはKYダービーを対象とした前売り馬券である。海外競馬の前売り発売というと、ブックメーカー各社が思いのオッズを提示して催すアンティポストベットが主流だが、KYダービーのフューチャーウエイジャーライフイズグッド方式で運営される点がミソだ。具体的には、主催者がその段階で有力馬と見込んだ23頭を抽出し、この23頭を1番枠から23番枠までに割り振る。23頭以外を24番枠にフィールドし、24頭立ての競馬を想定した上で、期間限定で馬券を売るのである。冒頭にブール4と紹介したが、昨年11月26日～29日にブール1、年明けの1月22日～24日にブール2、さらに2月12日～14日にブール3が催されていて、今回がブール4となつたわけである。ここまでブール1からブール3で、どんな馬が人気になつていたかというと、投票総数が最も多く単勝1番人気に推されていたのは、いずれも24番枠の「その他」の馬たち」だった。すなわち、レースはまだ

まだ先だし、とりたてて抜けた馬もないし、というのが、今年のケンタッキーダービーに向けた、ブール3の段階までのファンの見方であつた。

初め個別の馬が1番人気に推されたのみならず、上位3番人気まで個別の馬たちが占めたのだ。逆に言えば、「その他の馬たち」は4番人気まで後退したのである。そして、人気上位3頭の中でも1頭抜けた支持を受けたのが、ライフイズグッドであつた。

祖母がサラトガのG1テストS(d7F)2着馬ボーブルーフラッジという牡系出身で、キンランマンド9月1歳市場にて52万5千ドル(当時のレートで約5694万円)で購買され、西海岸の大御所ボブ・バファート厩舎の一員となつたのがライフイズグッドだ。

2歳11月22日にデルマーのメイドン(d6.5F)でデビューし、これを9.1/2馬身差で制してデビューウィン。続いて、1月2日にサンタアニタで行われたG3シャムS(d8F)に駒を進めた同馬は、3/4にサンタアニタで行われたG1サンタアニタで行なわれたG2サンフェリペS(d8.5F)だった。

ライフイズグッドの次走は、本会報が皆さまの御手元に届いてまもなく、4月3日にサンタアニタで行われるG1サンタアニタダービー(d9F)になる予定だ。日本の競馬ファンの皆様にも、ぜひご注目いただきたい。

タニアータで行われたG2サンフェリペS(d8.5F)だった。

前2戦同様に、ここもボンとハナにたつたライフイズグッドは、半マイル=48秒83、6F=1分10秒55のラップを刻んで直線に向くと、独走態勢を築き、最後は2着メディナスピリット(牡3、父プロトニコ)に8馬身差をつけて3連勝を飾った。

実を言えど、昨年の米最優秀2歳牡馬のエッセンシャルクオリティ(牡3、父タピット)が、サンフェリペSのちょうど一週間前の2月27日に、オークローンパークで行われたG3サウスウェストS(d8.5F)で今季初登場。初めてだつた不良馬場をものともせぬ4.1/4馬身差の快勝を演じ、デビューから継続している無敗の連勝を4に伸ばしたばかりであつた。したがつて、ブール4では、エッセンシャルクオリティとライフイズグッドの2頭がかなり接近したオッズになるのではないかと筆者は見込んでいたのだが、蓋をあけてみたらエッセンシャルクオリティ6.9倍に対し、ライフイズグッドが3.0倍と、思いがけない一本被りのオッズとなつた。

ライフイズグッドの次走は、本会報が皆さまの御手元に届いてまもなく、4月3日にサンタアニタで行われるG1サンタアニタダービー(d9F)になる予定だ。日本の競馬ファンの皆様にも、ぜひご注目いただきたい。